

法曹とともに ～司法を支える人々～



裁判官とともに 裁判所書記官

— Court Clerk with the Judge —

さいたん、書記官にインタビュー!!



裁判所ナビゲーター

さいたん

裁判所ナビゲーターのさいたんです。

裁判所書記官って知ってますか？ 法廷の裁判官席の前で黒い服（法服）を着た裁判所の職員が書記官です。書記官は、法廷で「書記」をするだけでなく、さまざまな仕事を通して、裁判官とともに裁判所を、司法を支えているんです。今日は、名古屋高等裁判所の民事部で活躍している書記官にインタビューしてみました！

加藤 陽 介

平20 名古屋地方裁判所裁判所事務官（採用）
平25 名古屋地方裁判所裁判所書記官（任官）
以降、地方裁判所で民事事件、
刑事事件を担当
令 3 名古屋高等裁判所裁判所書記官（現職）

裁判所書記官

裁 判 官

飯 野 里 朗

名古屋高等裁判所 判事



加藤書記官、今日はよろしくお願いします。まずは自己紹介を！！

こんにちは、さいたん。裁判所書記官の加藤陽介です。名古屋高等裁判所の民事部で仕事をしています。

趣味は音楽です。バンドでギター🎸を担当しています。裁判所の職員同士で組んでいるバンドもありますよ！！



へえ～カッコいい！

でも、どうして裁判所の職員になろうって思ったんですか？



大学の法学部に入学したときに、父親から「法律ってなんでわざわざ難しく書いてあるのかな？」という疑問を投げかけられて、そのときは「確かに…」と思ったのですが、実際に勉強してみると、法律はわざわざ難しく書いてあるわけではないことが分かりました。私も最初はそうだったように「一般の方にとって法律は難しくて理解しにくいものだ」という思いから、そのような方と司法をつなぐ職に就きたいと思って裁判所に入りました。



書記官になるためには、まずは裁判所事務官になって一定期間経験を積んだ後に、内部試験に合格して、約1～2年の研修を受ける必要があるって聞いたけど、書記官を目指したのはどうしてですか？

事務官の仕事も責任とやりがいがあって、充実していました。でも、もっと仕事の幅を広げ、直接的に裁判の当事者の方々とかわかって、裁判所と国民をつなぐ役割を担いたって思うようになったので、書記官を目指しました。



書記官が具体的にどんなお仕事をしているのか紹介してください！



書記官は、法廷に立ち会って、そこで行われた裁判手続を記録して調書を作っています。これは「書記」という言葉からもイメージしやすいですね。書記官が作成する調書は、裁判で行われたことを公に証明する唯一の方法ですし、これを作るのは書記官にしかできません！ ですから、書記官が立ち会わないと、法廷を開くこともできないんですよ。

そのほかにも、窓口での手続案内、裁判記録の作成保管、法令や判例の調査、執行文の付与、支払督促の発付など多岐に渡りますが、どれも一言では語り尽くせません。

さらに、検察官や弁護士、裁判の当事者の方々と、関係機関などと連絡を取り合って、裁判官の方針を伝えたり、それらの方々の意見を裁判官に報告したりして、裁判の手続がスムーズに進むようにする役割もあるんです。書記官は、言わば要（かなめ）、「コートマネージャー」と呼ばれることもありますね。



いろんなお仕事があるんだなあ。お仕事で大変なことってありますか？

裁判所は公平・中立でなければなりません。どんな場面でも、一方の当事者の味方になったり、裁判の結果が有利になるようなアドバイスをしたりということは絶対にできないんです。そういった立場を、裁判所を利用される方々に理解していただくことに難しさを感じることもありますね。



そうなんだ。一言で公平・中立って言うけど、それを理解してもらうのは難しいんだね。どんなところに書記官の仕事のやりがいを感じますか？

書記官の仕事は、裁判官、事務官と一つのチームを組んで、十分にコミュニケーションを取りながら進めていきます。それだけで毎日充実していますよ！

具体的にいうと... 地方裁判所で民事裁判を担当していた頃、ある裁判で、答弁書が提出される前に被告の方から電話がありました。ふだんから裁判官と審理方針についてよく確認していましたので、それを踏まえて被告の方の話を聴き、原告代理人とも調整して早期に和解案をまとめたときは、書記官としてやりがいを感じましたね。



書記官が裁判官の考え方を理解して、主体的に仕事を進めていくこともあるんだね。ふだんは裁判官とどんな関係なのかなあ？

そうですね。ふだんはすごくフランクな関係ですよ！ 時には冗談やプライベートな話で盛り上がることもあります。

仕事では、裁判官に裁判の進行等を確認するときは、まず自分自身の考えを率直に話して、裁判官に検討してもらえるように心がけています。裁判官は、書記官の意見に十分に耳を傾けてくれます。また、迷ったり困ったりしたときは、裁判官に相談するのですが、忙しいときでも必ず手を止めて相談に乗ってくれます。

裁判官から一言！

良い裁判は、裁判官一人の力で実現できるものではなく、裁判官・書記官・事務官がチーム一丸となって力を合わせることによって初めて実現されます。書記官の役割はとても重要です！





裁判官との関係で印象に残っているエピソードはありますか？

地方裁判所で民事裁判を担当していたときに、複雑な和解条項案を検討している中で、私の考えた案が採用されたときは素直にうれしかったです。

初めて刑事裁判の担当となり、不慣れで右往左往していたときには、裁判長から、「慌てなくていいから、加藤さんらしく。今できることをできる限りやってください。そして2年後どのように成長しているか。考えるのはそれからでいいよ。」と言ってもらえて、職員をこんなにも見てくれてるんだとびっくりしました。



書記官と裁判官の関係がよく分かりました。チームワークが大切なんだね。ここで裁判官に向けて一言！！

今、まさに裁判手続のIT化が進められていて、裁判所が、これまでよりも更に利用しやすくなるよう検討が続けられています。また、裁判所内でもITを駆使するなどして、事務の効率化を進めることができます。

でも、裁判当事者の主張や意見を聞いて、適正に裁判を進めていく、そして、判断をするという仕事は、人間である裁判官だからこそできる仕事だと思っています。書記官としては、これまで以上に裁判官との連携を深め、法令や判例の調査を通して裁判官の判断を助けられるように専門性を高めて、司法に貢献したいと思っています！

裁判官から一言！

裁判手続のIT化が進められても、書記官の役割の重要性は変わりません。私も今まで以上に書記官の協力を得ながら、より良い裁判の実現に向けて頑張ります！





今後の抱負を教えてください！

今後は、更に専門知識を深め、書記官として積極的に事件に関わる中で、裁判官の考えをくみ取り、認識を共有するなど十分に連携した上で、自らも考えながら仕事を進めていく自律的な書記官になりたいと思っています。また、これまで書記官として様々な部署を経験し、様々な裁判官と一緒に仕事をさせていただきました。その経験を生かして、今後は後輩の書記官の指導や、職員の人材育成にも貢献できるようになりたいと思っています。



最後に、裁判所には欠かせない「書記官」をアピールしてください！！

裁判所書記官は裁判手続に必要不可欠な存在です！ これは裁判所法60条1項が「各裁判所に裁判所書記官を置く。」と規定するように、書記官がいない裁判所はありません！

そして、書記官は「裁判手続のプロフェッショナル」です。具体的なアドバイスや法律相談をすることはできませんが、裁判手続のことなら精一杯お答えします！！

裁判所書記官という存在をもっと多くの人に知ってほしいです。さいたんも書記官のことをもっともっとアピールしてね！



うん！ 加藤書記官、ありがとうございました！

裁判所の職員の仕事に興味のある方は、裁判所のホームページをのぞいてみてね！

➡ <https://www.courts.go.jp/saiyo/index.html>



※ 今回のインタビューにおいては、写真撮影のみマスクを外した状態で行いましたが、現在、裁判所では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員は不織布マスクを着用して職務を行っています。